

# 中国で太陽光パネル量産

## 優遇措置活用、価格を半減

### 川崎のベンチャー2社

川崎市生まれのベンチャー企業の  
ジャンプ（金光日社長）と流体力学  
工房（佐藤和浩社長）が連携し、9  
月から中国北部で太陽光発電パネル  
の量産を始める。京都市の企業が特  
許を持つ折り曲げ可能な軽量パネル  
を生産し、日本に全量輸出する。  
現地の部材や優遇措置も活用し、価  
格を国内製の半分程度に抑えて納入  
先を開拓する。年間36億円の売上高  
を目指す。

中小企業のアジア進出  
を支援するジャンプは中  
国出身の金社長が201  
0年に設立した。安眠枕  
や省エネ装置を開発する  
流体工房は02年に佐藤社  
長が創業。両社は起業支  
援のアジア起業家村推進  
機構（川崎市）の仲介で  
共同事業を始めた。

まずジャンプが全額出  
資して吉林省琿春市に太  
陽光事業の運営会社メデ  
スを設立。金氏が会長、  
佐藤氏が社長に就いた。  
4月から工場の試験運転  
を始めており、9月4日  
の開所式を経て年1万2  
000平方メートル相当の太陽光  
パネルの量産に入る。  
工場は現地の工業団地  
が用意した建屋を使う。

1、2階部分（計230  
0平方メートル）に日本などか  
ら生産設備を持ち込ん  
だ。従業員は現地採用を  
中心に二十数人で、早急  
に40人規模に増やす。  
現地には海外で博士号  
を取得した中国人経営者  
を優遇する制度がある。  
金氏は日本で商学博士号  
を取っており、工場が1  
年無料で使えたり、製品  
の輸出関税がかからなか  
ったりする。工場の初期  
投資は「約8億円で済ん  
だ」（金氏）といい、部

材や人件費の安さも生か  
して製品価格を抑える。  
生産するのは京都市の  
クリーンベンチャー21  
（CV21）が開発した粒  
状シリコンのパネル。シ  
リコン材料を薄く塗って  
ガラスで挟む従来型と違  
い、表面積の大きい粒状  
のシリコンを並べる。シ  
リコンの使用量が少なく  
軽量で、折り曲げも可能。  
メデスはCV21から発電  
素子の供給を受け、中国  
でパネルに組み立てる。  
製品はCV21に供給す  
るほか、流体工房が国内  
の需要家に販売する。福  
島県内などで官民が取り  
組んでいる太陽光発電ア  
ロジェクトにもパネルを  
供給する計画だ。  
流体工房は、曲がるパ  
ネルを張り合わせて球状  
にした独自製品「ソーラ  
ーボール」の販売も始め  
る。サッカーボールのよ  
うにパーツをつないで直  
径2倍程度のオブジェに  
仕立てる。公園に設置す  
るほか、液晶パネルと組  
み合わせれば「環境に優  
しい電子看板」として注  
目を集めるとみている。



中国・吉林省の生産拠点（1、2階部分）  
写真上。折り曲げ可能な軽量パネルを  
日本に全量輸出する

中国・吉林省の生産拠点（1、2階部分）  
写真上。折り曲げ可能な軽量パネルを  
日本に全量輸出する